

養護教諭による児童生徒の心の健康問題の早期発見に関する文献検討

宮脇 智子¹⁾, 藤原 和政²⁾, 樋口 雪子¹⁾
清水 菜月³⁾, 岡井千沙子³⁾

キーワード：養護教諭，健康相談，心の健康問題

I. 緒言

文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」(2022)によると，不登校児童生徒の割合は小学校1.7%，中学校6.0%，高等学校2.0%と，いずれも過去最多となった。このような現状を受け，「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」が策定され，児童生徒の心の小さなSOSに「チーム学校」で素早く支援することの重要性が指摘された(文部科学省，2023)。養護教諭は，児童生徒の身体的不調の背景にいじめや不登校，虐待など心の健康問題が関わっていることにいち早く気付くことができる立場にあり，児童生徒の健康問題への対応について，「チーム学校」における中心的な役割を担うことが期待されている。また養護教諭は，心身の課題を抱えた児童生徒を確実に把握するため，保健室だけにとどまらず校内を見回り，部活動等の児童生徒の様子や声掛けなどを通して日ごろの状況を知っておくことや，変化に気付いた場合は関係者と連携し速やかに対応することが求められている(文部科学省，2017)。

しかし，身体の不調として表出される児童生徒の訴え等から心の健康問題を発見し，早期に支援に繋げるのは容易ではない(金田ら，2011。松永ら，2022)。先行研究では，養護教諭は複雑多様な健康問題を姿勢やしぐさに着目しながら把握しようとしていることや(三上ら，2010)，心の健康問題は表情や行動，身体症状となって現れることを意識して観察する(菊池ら，2018)等，児

童生徒の心の小さなSOSに気付こうとする養護教諭の姿が報告されている。いじめ，不登校などの未然防止や問題の深刻化を防ぐためにも，養護教諭が早期に児童生徒の心の健康問題に気付く，問題の要因を把握し，適切な支援に繋げることが重要である。

そこで本研究の目的は，文献検討により養護教諭が児童生徒の心の健康問題にどのようにして気付く，問題の要因を把握しているのかを整理し，今後の課題について示唆を得ることとした。

II. 研究方法

1. 研究デザイン

文献検討

2. 対象文献の抽出方法

研究素材となる文献は，近年の状況を把握するため2014年以降の10年間を対象とした。日本国内文献を医学中央雑誌web版(Ver. 5)と国立情報科学研究所NII学術情報ナビゲーター(CiNii)を用い，検索式を「養護教諭and健康相談」「養護教諭and心の健康問題」として検索し，重複文献を除外した結果，286件が検出された。適格基準は，養護教諭による児童生徒の心の健康問題の早期発見を対象としている文献とした。タイトルと要約から，本研究に合致しないと判断されるもの(会議録，解説・論説，疾患の早期発見に関する記述，災害等特殊な状況に関する記述)267件を除外し，19件を対象文献とした。

3. 分析方法

対象文献を年代別に整理し，養護教諭による児童生徒の心の健康問題の早期発見に関する記述と判断できる箇所を抽出した。抽出した箇所を「心の健康問題への気づき」「心の健康問題の要因の把握」の2つのカテゴリーに分類して整理し，現状と課題を明らかにした。

受付日 2024年5月28日

採択日 2024年9月2日

1) MIYAWAKI Tomoko, HIGUCHI Yukiko
関西福祉大学 看護学部

2) FUJIWARA Kazumasa
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科

3) SHIMIZU Natsuki, OKAI Chisako
関西福祉大学 教育学部

Ⅲ. 用語の定義

本研究では、心の健康問題を、文部科学省中央教育審議会答申（2008）を参考に、「ストレスによる心身の不調などメンタルヘルスに関する課題であり、その課題の背景にいじめ、不登校、児童虐待などの問題が関わっている又はその可能性があるものを含む」と定義する。

Ⅳ. 研究結果

1. 対象文献

表1に対象文献を記載した。対象文献の研究デザインは、質的研究11件、量的研究4件、混合研究4件であった。「心の健康問題への気付き」「心の健康問題の要因の把握」の分類及び文献から抽出した内容を表2に示す。なお、文中の丸数字は、表1内に示した分析対象文献の番号である。

2. 心の健康問題への気付きに関する記述

心の健康問題への気付きに関する文献は13件得られた。内容を検討した結果、さらに2つのサブカテゴリ「来室に備えた準備」と「心の健康問題の可能性を考慮した観察」に分類された。

(1) 来室に備えた準備

児童生徒の心の健康問題の早期発見のために、養護教諭は日ごろから保健室の外でも児童生徒を観察し情報収集を行い、保健室にしやすい環境や雰囲気作りに努めていた(⑪⑮)。また、普段と違う様子に着目し(⑮⑯)、該当児童生徒がいずれ来室するだろうという予測をもって備えていた(⑦)。さらに友人の付き添い等の一見問題がなさそうな保健室来室にも注意を払っていた(⑧)。このように、養護教諭は普段の児童生徒の様子を観察するとともに、相談しやすいように環境を整え、来室に備えた準備をしていた。

(2) 心の健康問題の可能性を考慮した観察

養護教諭は、保健室に来室した児童生徒に対し、真っ先に緊急性を判断するため顔色やふるまいを観察し(③)健康診断結果や身体測定結果も活用しつつ丁寧な観察や問診を行い、身体の疾患や心の健康問題から起こる不調などの身体的異常がないか確認していた(⑦⑲)。また、繰り返す来室や頻繁な不調の訴え、漠然とした訴え(⑮)、愚痴・不満などのネガティブな発言に着目し(⑤)、来室時にどこに座るかや、目まぐるしく変化する表情、視線、雰囲気等を精緻に観察し(⑬⑪)、児童生徒の僅か

な変化にも気づくような「メタ水準の関心」を働かせていた(②⑤)。中学校・高等学校では不眠や友人との不和、学業不振等を単に学校生活上の問題として捉えるのではなく、精神障害の影響を踏まえて生徒の状況を把握しようとしていた(⑥⑮)。さらに児童生徒理解のために、Q-Uアンケート、エゴグラム等の心理テスト(⑮)や研究者が開発したアセスメントシート等も活用していた(⑨⑫⑲)。このように養護教諭は、身体疾患との鑑別を行いつつ、心の健康問題や精神障害の可能性を考慮し児童生徒を精緻に観察していた。

3. 心の健康問題の要因の把握

心の健康問題の要因の把握に関する文献は11件得られた。養護教諭は、来室記録カード等(⑩)を活用したり、ストレートに悩みの有無を質問したりし(③⑮)、児童生徒に悩みや感情の言語化を促していた。また、優しくユーモアを活用した声掛け(⑭)や、脈拍測定・腹部触診などのタッチングや救急処置を行いながら話を聴くことによって自己開示を促進していた(②⑯⑰)。高等学校では、生徒は深刻な心身の健康問題をあまり語らないことを考慮し、生徒が語り出そうとする様子や雰囲気、神経を研ぎ澄ませ、真摯に向き合いながら情動を感じ取ろうとしていた(④⑤)。さらに、養護教諭は児童生徒から信頼に値する人物が見極められていることを察知しており(①⑪)、児童生徒との相互関係や信頼関係づくりの重要性を認識していた(⑪⑮)。しかし「どのようにしたら児童生徒に寄り添い、安心感を与えることになるのか」等、困難感も示されていた(⑪)。

以上から、養護教諭は児童生徒との信頼関係の構築に努め、発達の視点を持ちながら、児童生徒の状況に応じて悩みや感情の言語表出を手助けする働きかけや配慮を行っていることが示唆された。一方で、児童生徒に信頼感や安心感を与えることの難しさも示された。

Ⅴ. 考察

文部科学省「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援」(2017)には、課題解決に向けた支援の4つのステップ、すなわち、ステップ1「対象者の把握」、ステップ2「課題の背景の把握」、ステップ3「支援方針・支援方法の検討と実施」ステップ4「児童生徒の状況確認及び支援方針・支援方法等の再検討と実施」が示されている。ステップ1には「1 体制整備」「2 気付く・報告・対応」が含まれるが、本研究では、主にステップ1の「気付く」について対象文献の分析を行った。養護教諭は保

表1. 分析対象文献一覧

番号	発表年	著者	掲載誌	論文テーマ	キーワード	研究デザイン
①	2022	三宅昂子	日本健康相談活動学会誌, 17(2), 36-40.	学校におけるケア機能の可能性と課題－小学校養護教諭の実践から－	ケア, 小学校, 養護教諭	質的
②	2022	辻京子, 西岡かおり	日本健康相談活動学会誌, 17(1), 16-21.	児童虐待の実践内容からみた養護教諭の役割－小学校に勤務する養護教諭へのインタビュー調査から－	養護教諭, 児童虐待防止教育的介入, コーディネーター的役割	質的
③	2022	高橋妙子, 留目宏美	学校健康相談研究, 19(1), 51-62.	「気持ち悪い」と訴え保健室に来室する中学生に対する養護教諭の見立ての特徴－健康相談の質的分析を通して－	気持ち悪い, 中学生, 養護教諭, 見立て, 健康相談	質的
④	2021	菊池美奈子, 重年清香	日本健康相談活動学会誌, 16, 57-68.	心身の健康問題を抱える高校生への継続支援過程における養護教諭の対応と継続支援件数及び高等学校勤務年数との関連	養護教諭, 継続支援過程, 心身の健康問題, 高校生	量的
⑤	2020	菊池美奈子, 池川典子	日本健康相談活動学会誌, 15, 27-40.	思春期生徒との信頼関係を進展させる健康相談活動・健康相談の継続支援プロセス第2段階	養護教諭, 健康相談活動・健康相談, 第2段階, 信頼関係, 安心感	質的
⑥	2019	欠ノ下郁子, 植田誠治	日本教育保健学会年報, 26, 15-28.	心の健康問題を抱える児童生徒への支援に関する実態－養護教諭を対象としたアンケート調査より－	学校精神保健, 精神疾患, 早期支援, 連携, DUP (精神病未治療期間)	量的
⑦	2019	岩井由里, 池添志乃	高知女子大学看護学会, 44(2), 67-75.	不定愁訴を持つ高校生に対する養護教諭の行う健康相談－見立てる局面において養護教諭が用いる技の分析－	養護教諭, 健康相談, 不定愁訴	質的
⑧	2019	竹内佳美, 松下真実子, 桐下直子, 他	日本健康相談活動学会誌, 14(1), 63-74.	子どもの心の問題に気づくための養護教諭の着眼点指標の活用	養護教諭, 心の問題, 着眼点指標	混合
⑨	2019	五十嵐利恵, 黒田千代江, 北村米子, 他	日本健康相談活動学会誌, 14(1), 43-50.	身体症状の背景にみられる心的要因を掴むための健康相談活動の工夫－「気づきシート」の検討－	健康相談活動, 身体症状, アセスメント, 心的要因, 気づきシート	混合
⑩	2019	須藤里美	教育実践研究, 29, 259-264.	養護教諭の健康相談活動における生徒の「情報の整理」－生徒の健康課題の早期発見及び組織との情報共有を目指して－	－	混合
⑪	2018	菊池美奈子, 池川典子	学校保健研究, 60, 26-40.	養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の継続支援プロセスの初期段階－中学校・高等学校の養護教諭インタビュー調査から(1)－	養護教諭, 健康相談・健康相談活動, 初期段階, 信頼関係, M-GTA	質的
⑫	2017	大沼久美子, 篠沢聡美, 力丸真智子	日本健康相談活動学会誌, 12(1), 50-64.	養護教諭が行う心理的・社会的アセスメントシートの実用化に向けた検討	心理的, 社会的, アセスメント, 養護教諭	量的
⑬	2016	茂中瑞希, 斉藤ふくみ	茨城大学教育学部紀要 (教育科学), 65, 293-305.	健康相談活動における高校生と養護教諭のニーズの共有化－インタビュー調査から－	－	質的
⑭	2016	黒子彩子	学校相談研究, 12(2), 145-161.	児童への対応場面における熟練養護教諭の実践知を示す視点の抽出－保健室実践DVDの開発を通して－	熟練養護教諭, 実践知, 視点の抽出, 保健室実践, DVD開発	質的
⑮	2015	異饑田はづき, 小山達也, 嵐弘美, 他	東京女子医大看護会誌, 1(1), 1-10.	中学校に勤務する養護教諭が捉える生徒の心の健康問題のサインとそれに関わる養護教諭の技術	養護教諭, 中学生, メンタルヘルス	質的
⑯	2015	佐藤倫子, 今野洋子, 照井沙彩	日本健康相談活動学会誌, 10(1), 90-99.	養護教諭の健康相談・健康相談活動の実態から捉えた課題－小・中学校養護教諭対象の質問紙調査から－	健康相談・健康相談活動, 校種, 経験年数, 講義, 研修	量的
⑰	2015	落合賀津子, 竹崎登喜江	北里大学教職課程センター教育研究, 1, 65-72.	養護教諭の職務のあり方について－健康相談に関する事例をとおして－	－	質的
⑱	2014	菊地紀美子, 二本はま子, 奥井現理	飯田女子短期大学紀要, 31, 89-114.	児童生徒の心因性の健康相談に対して養護教諭が抱えている困難とその対応	養護教諭, 心因性相談, 困難と対応, 健康, 教育	質的
⑲	2014	稲垣尚美, 畑中高子, 竹田由美子, 他	学校健康相談研究11(1), 65-75.	思春期やせ傾向発見のためのチェックリストに関する研究	思春期やせ症, 養護教諭, チェックリスト	混合

表2. 養護教諭による心の健康問題の早期発見に関する抽出箇所と文献の分類

カテゴリー	サブカテゴリー	文献番号	抽出箇所
心の健康問題への気付き	来室に備えた準備	⑦	・該当生徒がいずれ来室するだろうという予測をもって備えていた
		⑧	・友人の付き添い等、一見問題がなさそうな来室にも注意する必要がある
		⑪	・生徒が来室してから対応をはじめのではなく、日頃から話を聴くというメッセージを生徒に発しており、話を聴くことを重視した保健室の体制の整備を図っている
		⑮	・養護教諭は保健室に来やすい雰囲気作りに工夫を凝らしていた ・普段と違う行動をするなどに注目して集団の中から浮かび上がる生徒の変化を捉えていた
		⑱	・普段と違う様子など児童生徒が発するサインを見逃さない
	心の健康問題の可能性を考慮した観察	②	・児童の保健室来室時のわずかな変化を見逃さない
		③	・真っ先に緊急性を判断するため、顔色やふるまいを観察する
		⑤	・安心して話してくれる関係につながるネガティブな言動を受け止める ・子どもに対する深い気遣いや配慮が含まれる「メタ水準の関心」を働かせていた
		⑥	・「児童生徒の精神症状の観察」では、高等学校で多かった
		⑦	・健康を管理する養護教諭として、まずは身体的異常がないか確認をしてからその背景にある心の課題に焦点を当てていた
		⑨	・「気づきシート」に記入したことで、子どもが訴える身体症状の背景にみられる心的要因を掴みやすくなった
		⑪	・目まぐるしく変化する表情、視線、雰囲気等の生徒が表している様々な言動に対して、養護教諭は普段から意識して精緻に観察している
		⑫	・心理的・社会的アセスメントシートの活用によってより確かなアセスメントと子どもへの支援が可能になる
		⑬	・養護教諭からみてどこに座るのか、来室したとき泣いていなかったか、来室した途端に話し始めるかなど行動を見る
		⑮	・養護教諭は、保健室に来室する生徒の繰り返す体調不良の訴えに注目していた ・養護教諭は漠然とした訴えにも注目していた ・養護教諭は不眠や友人関係がうまくいかない、授業についていけないという行動を単に学校生活上の問題として捉えるのではなく、精神障害の影響を踏まえて把握していた
		⑱	・「児童生徒の学級での位置を確認するためのQ-Uの活用」心理テストの「自己評価できるエゴグラム」「ワークシートや用紙」を渡し自由に書いてもらい、そこから情報を得て判断していた
		⑲	・丁寧な観察、問診、検診が早期発見のベースになり、生徒自身に現れている身体的症状に関する問診等を通して、早期発見のみならず、養護教諭への信頼を深めていくことに繋がる ・健康診断結果や身体計測結果から発見することに努めていた ・思春期やせ傾向発見のためのチェックリスト（試案）を作成した
心の健康問題の要因の把握		①	・養護教諭が子どもたちの様子や家庭環境に関する事前情報を得ていることが重要である ・養護教諭が「全人的視点」を持って向き合ってくれる人かを見極めていたと思われる
		②	・応急手当てをしながら虐待兆候の観察をすることで家庭の状況を確認していた
		③	・身体の異常がないことを共有した上で、困りごとや嫌なことを率直にたずねる
		④	・背後に複雑な問題がからんでいる子どもはあまり語らないことも多く、問題の核心や全体像をつかむことが難しく、そのため解決課題がなかなかみえてこない ・生徒が語り出そうとする様子や雰囲気や神経を研ぎ澄ませており、養護教諭は生徒が話し出そうとしている瞬間を感知する
		⑤	・生徒に真摯に向き合い聴きながら、生徒の言葉や身振り、表情、雰囲気から発せられる苦痛な情動を感じ取り、生徒の苦しみを理解していた
		⑩	・来室記録カードやステップチャートは、健康課題の背景が明確になり、具体的な支援に直結する有効なツールであった
		⑪	・生徒が、養護教諭に話してもいいのか試していることを養護教諭が認識しており、その試しに応じた養護教諭の対応によって、生徒の言語表出を漸増させている ・養護教諭と生徒が相互に肯定的な反応による関係を深化させていくことによって、お互いを尊重することができ、生徒と深いレベルで生き生きと交流できるようになり、より深い信頼関係と発展させることができる ・どのようにしたら生徒に寄り添い、生徒に安心感を与えることになるのか養護教諭が個々の生徒に合わせてながら苦心して対応している
		⑭	・笑顔での対応や優しい・ユーモアを活用した声かけなどにより、コミュニケーションを和やかなものにしていく
		⑯	・タッチングや救急処置を行いながら、話を聴いたり話し掛ける
		⑰	・脈拍測定や腹部の触診などのタッチングが自己開示や信頼関係の促進につながったと思われる
		⑱	・「ストレートに悩みの有無を質問する」という対応が必要で、その方法やタイミングは、学校現場の児童生徒から常に学ぶ必要がある ・信頼関係づくりとは、安心できる居場所がみつかり心が満たされ、児童生徒と信頼関係が築けることであった

※「心の健康問題の要因の把握」は、サブカテゴリーには分類されなかった

健室の外でも心の健康問題を抱える児童生徒の把握に努めると同時に、日ごろからの情報収集により保健室来室を予測して準備していることが示されており、初期の段階では、ステップ1とステップ2は順不同に、あるいは並行して行われていると考えられた。日ごろから情報を収集し、実際に児童生徒が来室した場合には既に得た情報とつなぎ合わせ、身体の訴えの背後に心の健康問題が潜んでいる可能性があると考えて対応を行うことが、早期の支援の実施に繋げるために重要であると考えた。

また、本研究において養護教諭は、保健室に来室した児童生徒の緊急性の判断や、健康診断結果等を活用した観察、問診により身体疾患の有無についてアセスメントを行っていた。これは、「養護教諭は医学・看護学的分野の専門的な知識をもち、その特質を活かしながら児童生徒の心身の状態をアセスメントしている」という澤村ら（2013）の指摘と合致していた。さらに、身体疾患と心の健康問題の識別について鎌塚ら（2010）は、養護教諭は来室した児童生徒から瞬時に「不自然さ」「違和感」「不可解さ」などを感じ取っていると指摘しており、心の問題が存在する可能性を判断するときの養護教諭の11視点を明らかにしている。本研究においても、養護教諭は児童生徒を精緻に観察し、僅かな変化にも気づくような「メタ水準の関心」を働かせながら、身体疾患や精神障害との鑑別を行っていることが示された。

上記のような対応の後には、児童生徒本人の言葉を通して心の状態を確認する必要がある。しかし、児童生徒が心の健康問題を言葉で訴えることは容易ではない。水野ら（2013）は、小学校低学年の子どもは、自分の状態をうまく言語化できない、高校生では周囲が気になり悩みや問題を話すことへ抵抗感をもつなど、児童生徒の発達段階を踏まえた関わりが重要であり、養護教諭は発達上の特徴に留意し、児童生徒の心身の状態から援助ニーズを見出すことが、援助の最初のステップになると指摘している。本研究でも養護教諭は、児童生徒に対し発達の視点を持ちながら、悩みや感情の言語表出を手助けする働きかけや配慮を行っていた。さらに、タッチングや傾聴等によって児童生徒に安心感を与え、信頼関係の構築を図り、問題の核心を捉えようとしていた。一方で、児童生徒に安心感や信頼感を与えることの難しさも示された。これは、個々の児童生徒の心理状態や問題の背景が異なっているため、どのような対応が安心感や信頼感に繋がるのかを個別に判断しなければならない難しさがあると推察される。

最後に、本研究では養護教諭が児童生徒の心の健康問

題にどのようにして気付いているのかや、心の健康問題の要因の把握について整理することができた。しかし、児童生徒に安心感を与え信頼関係を構築するための養護教諭の具体的な言葉かけや、それが児童生徒にどのような影響をもたらしているかまでは解明することができなかった。これらを解明することにより、早期の支援の実施に繋がる重要な示唆が得られると考える。今後の課題として、児童生徒が安心感や信頼感を持つことができる養護教諭の具体的な対応や、その対応が児童生徒に及ぼす影響を検証することが必要である。

VI. 結論

養護教諭は児童生徒の心の健康問題の早期発見のため、日ごろから保健室の外でも観察や情報収集を行い、保健室来室を予測して準備をしていた。また、児童生徒を精緻に観察し、心の健康問題の可能性を考慮しつつ、身体疾患や精神疾患との鑑別を行っていた。さらに、児童生徒との信頼関係を築き、悩みや感情の言語化を促し問題の核心を捉えようと努め、児童生徒に発達の視点を持って対応していた。今後の課題として、養護教諭の具体的な対応や、その対応が児童生徒に及ぼす影響を検証することが必要である。

利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

引用文献

- 1) 五十嵐利恵, 黒田千代江, 北村米子, 他 (2019): 身体症状の背景にみられる心的要因を掴むための健康相談活動の工夫－「気づきシート」の検討－, 日本健康相談活動学会誌, 14(1), 43-50.
- 2) 異儀田はづき, 小山達也, 嵐弘美, 他 (2015): 中学校に勤務する養護教諭が捉える生徒の心の健康問題のサインとそれに関わる養護教諭の技術, 東京女子医大看護会誌, 1(1), 1-10.
- 3) 稲垣尚美, 畑中高子, 竹田由美子, 他 (2014): 思春期やせ傾向発見のためのチェックリストに関する研究, 学校健康相談研究, 11(1), 65-75.
- 4) 岩井由里, 池添志乃 (2019): 不定愁訴を持つ高校生に対する養護教諭の行う健康相談－見立てる局面において養護教諭が用いる技の分析－, 高知女子大学看護学会, 44(2), 67-75.
- 5) 金田 (松永) 恵, 庄司一子 (2011): 保健室における子どもの不定愁訴への養護教諭の対応について－先行研究

- の検討－，発達臨床心理学研究，22，31-41.
- 6) 欠ノ下郁子，植田誠治（2019）：心の健康問題を抱える児童生徒への支援に関する実態－養護教諭を対象としたアンケート調査より－，日本教育保健学会年報，26，15-28.
- 7) 鎌塚優子，岡田加奈子（2010）：子どもに心の問題が存在する可能性がある判断するときの養護教諭の視点－フォーカス・グループ・インタビューによる小学校，中学校，高等学校の視点の抽出－，日本健康相談活動学会誌，5(1)，40-65.
- 8) 菊地紀美子，二木はま子，奥井現理（2014）：児童生徒の心因性の健康相談に対して養護教諭が抱えている困難とその対応，飯田女子短期大学紀要，31，89-114.
- 9) 菊池美奈子，池川典子（2018）：養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の継続支援プロセスの初期段階－中学校・高等学校の養護教諭インタビュー調査から(1)－，学校保健研究，60，26-40.
- 10) 菊池美奈子，池川典子（2020）：思春期生徒との信頼関係を進展させる健康相談活動・健康相談の継続支援プロセス第2段階，日本健康相談活動学会誌，15，27-40.
- 11) 菊池美奈子，重年清香（2021）：心身の健康問題を抱える高校生への継続支援過程における養護教諭の対応と継続支援件数及び高等学校勤務年数との関連，日本健康相談活動学会誌，16，57-68.
- 12) 黒子彩子（2016）：児童への対応場面における熟練養護教諭の実践知を示す視点の抽出－保健室実践DVDの開発を通して－，学校相談研究，12(2)，145-161.
- 13) 松永恵，庄司一子（2022）：養護教諭が子どもの不定愁訴に対応する際の困難感，学校保健研究，64，226-234.
- 14) 三上佳澄，對馬明美，西沢義子（2010）：患者の姿勢から認知する感情について－看護者と養護教諭の比較から－，日本看護研究学会雑誌，33(1)，93-101.
- 15) 三宅昂子（2022）：学校におけるケア機能の可能性と課題－小学校養護教諭の実践から－，日本健康相談活動学会誌，17(2)，36-40.
- 16) 水野治久，石隈利紀，田村節子，他（2013）：よくわかる学校心理学，ミネルヴァ書房，京都.
- 17) 文部科学省：子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（答申），中央教育審議会，2008-1-17. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/01/14/001_4.pdf（検索日 2024-07-14）
- 18) 文部科学省：現代的健康課題を抱える子供たちへの支援－養護教諭の役割を中心として－，文部科学省，2017-05-01. https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1384974.htm（検索日 2024-04-24）
- 19) 文部科学省：誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策COCOLOプラン，文部科学省，2023-03-31. https://www.mext.go.jp/content/20230418-mxt_jidou02-000028870-cc.pdf（検索日 2024-07-14）
- 20) 落合賀津子，竹崎登喜江（2015）：養護教諭の職務のあり方について－健康相談に関する事例をとおして－，北里大学教職課程センター教育研究，1，65-72.
- 21) 大沼久美子，篠沢聡美，力丸真智子（2017）：養護教諭が行う心理的・社会的アセスメントシートの実用化に向けた検討，日本健康相談活動学会誌，12(1)，50-64.
- 22) 佐藤倫子，今野洋子，照井沙彩（2015）：養護教諭の健康相談・健康相談活動の実態から捉えた課題－小・中学校養護教諭対象の質問紙調査から－，日本健康相談活動学会誌，10(1)，90-99.
- 23) 澤村文香，三木とみ子，大沼久美子，他（2013）：養護教諭によるタッチングの実態と実感している効果の検討－質問紙調査の結果から－，学校保健研究，55，3-12.
- 24) 茂中瑞希，齊藤ふくみ（2016）：健康相談活動における高校生と養護教諭のニーズの共有化－インタビュー調査から－，茨城大学教育学部紀要（教育科学），65，293-305.
- 25) 須藤里美（2019）：養護教諭の健康相談活動における生徒の「情報の整理」－生徒の健康課題の早期発見及び組織との情報共有を目指して－，教育実践研究，29，259-264.
- 26) 高橋妙子，留目宏美（2022）：「気持ち悪い」と訴え保健室に来室する中学生に対する養護教諭の見立ての特徴－健康相談の質的分析を通して－，学校健康相談研究，19(1)，51-62.
- 27) 竹内佳美，松下真実子，桐下直子，他（2019）：子どもの心の問題に気づくための養護教諭の着眼点指標の活用，日本健康相談活動学会誌，14(1)，63-74.
- 28) 辻京子，西岡かおり（2022）：児童虐待の実践内容からみた養護教諭の役割－小学校に勤務する養護教諭へのインタビュー調査から－，日本健康相談活動学会誌，17(1)，16-21.